

第89期中間株主通信

2014.4.1 ▶ 2014.9.30



証券コード：6863

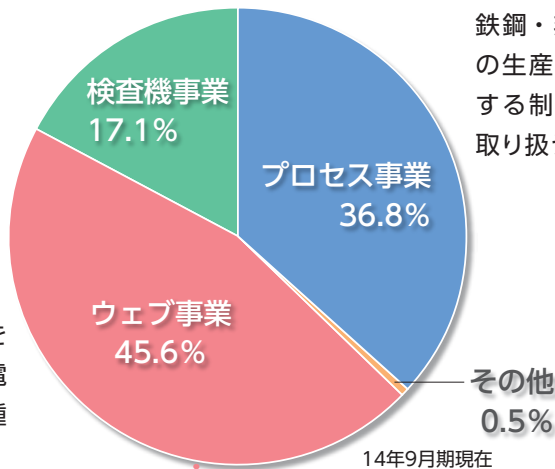
制御・検査装置のパイオニア

ニレコは「技術と信頼」をモットーに様々な産業分野で貢献してまいります。

売上構成

当社が30年以上にわたり培ってきた画像処理技術をベースに、電子機器材料から農産物に至るまで幅広い製品を対象とした検査装置を取り扱う事業

シート状製品の位置制御を取扱い、製紙・印刷から電子機器材料まで広範な業種を対象とした事業

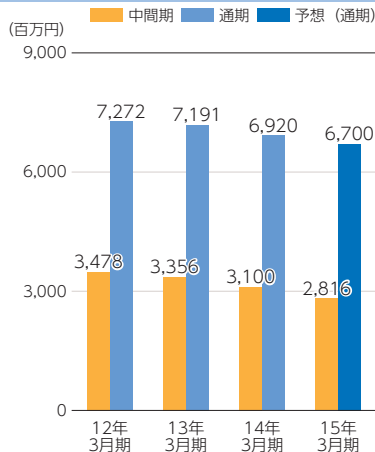


鉄鋼・非鉄金属や化学などの生産ラインを主な対象とする制御装置や計測装置を取り扱う事業

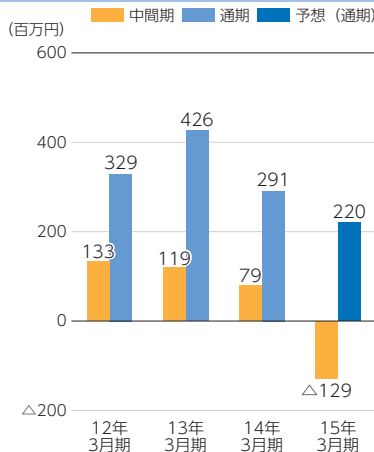
Pick UP 9Pで詳細をご紹介します

業績ハイライト

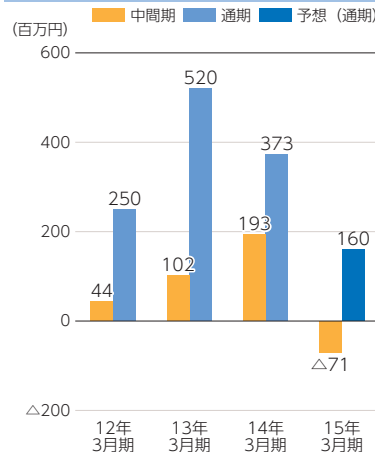
売上高



営業利益



四半期 (当期) 純利益





代表取締役社長

川 路 憲 一

● 当上期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2014年9月30日をもちまして終了しました第89期上期の業績結果をご報告申し上げます。

世界経済が緩やかな回復基調をたどる中、国内経済は、消費税率の引き上げに伴い前半は個人消費が低迷したものの、後半は全般的に緩やかな回復が続きました。

一方、当社グループの主要取引先であります印刷業、紙加工業、電子部材メーカー、鉄鋼業及び化学工業などの設備投資に向けた動きは、一部業種に表れたものの、全体として慎重な傾向が続きました。

このような厳しい環境の下、当社グループは、新製品の開発、受注の獲得、コストダウンに注力してまいりましたが、売上高2,816百万円（前年同期比△9.2%）、営業損失129百万円（前年同期は営業利益79百万円）、四半期純損失71百万円（前年同期は四半期純利益193百万円）という結果になりました。

なお、中間配当金につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。

● 当下期の見通しについて

今後の世界経済は、米国が回復基調にあるものの、中

当上期は期初公表いたしました目標値を下回る結果となり、その遅れを取り戻すことはできないとの見通しから、誠に遺憾ながら、通期売上高、利益を下方修正いたしました。中間配当金は期初公表どおり10円とさせていただきます。

国を始めとした新興国や欧州の経済成長率が鈍化するなど、先行き不透明な状況です。また、国内経済においても、円安の進行などによる景気への影響が懸念されます。従いまして、今後も設備投資需要の本格的な回復につきましては、予断を許さない状況が続くものと考えております。

このような見通しの下、当社グループは、フラット・パネル・ディスプレイや次世代電池向け高機能フィルムの制御・検査装置、青果物の選果装置などを成長が期待できる分野と捉え、そこに技術力と営業力を結集するとともに、パッケージの検査や、魚の選別装置などといった新たな分野の開拓にも取り組んでまいります。また、海外売上高の拡大、コストダウンへの取り組みにも引き続き注力し、中長期的な成長に向けた事業基盤の構築・強化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

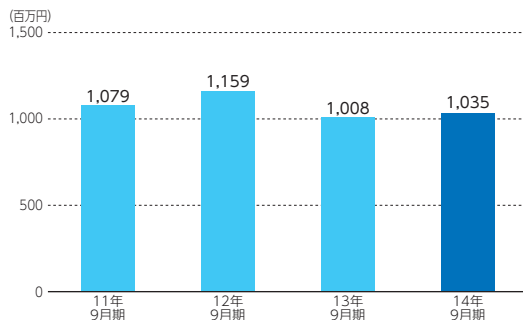
2015年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	金額	前期比
売上高	6,700	△3.2%
営業利益	220	△24.6%
経常利益	270	△25.4%
当期純利益	160	△57.2%

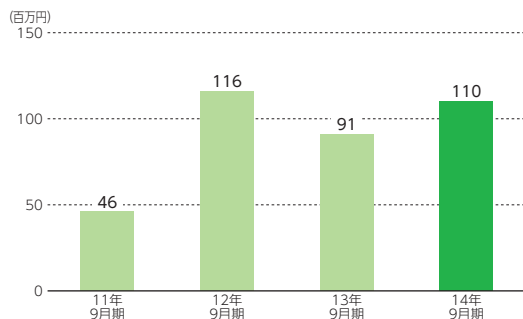
プロセス事業

■ 売上高



2.6%

■ セグメント利益



20.7%

当事業の主要取引先であります国内鉄鋼業界は、戦略的観点から海外新規設備投資に注力し、国内設備投資については更新が中心となりました。一方、海外鉄鋼業界は、一部メーカーで新規設備投資に向けた動きが続きました。このような状況において、当社グループは、国内については、生産の維持に必要な設備改修・更新、部品の販売、メンテナンスといった需要の取り込みに注力するとともに、鉄鋼製品の品質と生産効率の向上につながる新製品群の積極的な提案に努めました。また、海外については、国内での実績をアピールし、新規顧客の獲得に注力しました。

その結果、当事業の売上高は1,035百万円（前年同期比+2.6%）、セグメント利益は110百万円（前年同期比+20.7%）となりました。また、受注高は1,050百万円（前年同期比△22.6%）となりました。

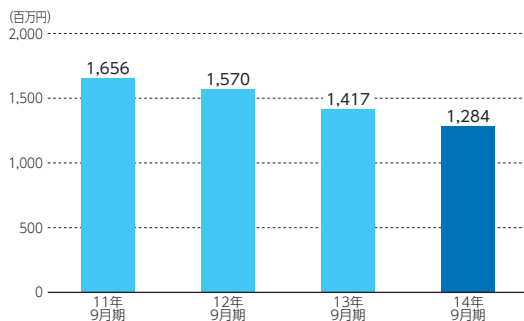
下期の展望

当事業の主要取引先である鉄鋼業界は、国内外ともに上期同様の環境が続くものと想定しております。当社グループは、国内においては、引き続き新製品の提案による顧客の潜在ニーズの掘り起しに注力します。また、海外においては、新たに設立した韓国子会社が

この11月より営業開始しました。その他地域の代理店網とも連携し、東南アジアを中心に顧客の開拓を進めていきます。

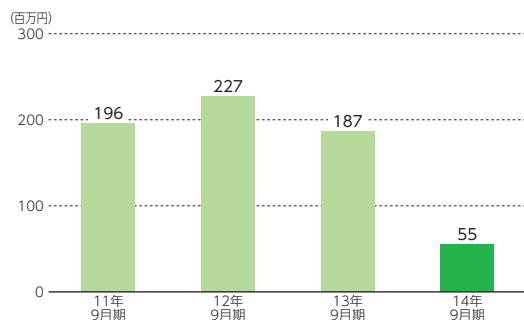
ウェブ事業

■ 売上高



9.3%

■ セグメント利益



70.5%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、スマートフォンやタブレット端末の旺盛な需要の下、中小型液晶パネル向け部材の生産は引き続き好調なものの、新規設備投資に関しては慎重な姿勢が続きました。このような状況の下、当社グループは、真空環境対応の耳端位置制御装置や張力制御装置などを中心に営業活動を展開しましたが、前年同期の売上高を下回りました。

もう一方の主要取引先であります印刷業界は、商業印刷市場が大変厳しい環境にある中、当社グループは、食品包装資材や特殊印刷などを対象に印刷品質検査装置や糊付け装置の販売に注力しましたが、前年同期の売上高をわずかに下回りました。

その結果、当事業の売上高は1,284百万円（前年同期比△9.3%）、セグメント利益は55百万円（前年同期比△70.5%）となりました。また、受注高は1,364百万円（前年同期比△7.1%）となりました。

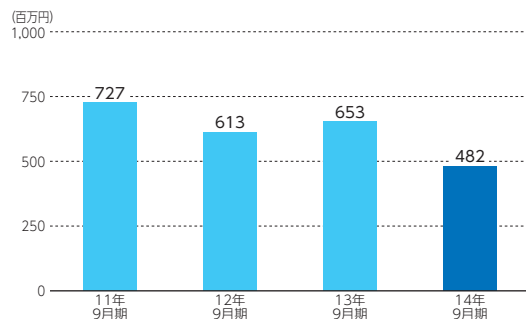
下期の展望

当事業の主要取引先である高機能フィルム業界の新規設備投資に向けた動きは、引き続き不透明な状況が続くものと想定しております。このような環境の下、機能の向上とコストダウンした新製品の投入によりシェアの拡大を目指すとともに、中国、韓国、台湾を

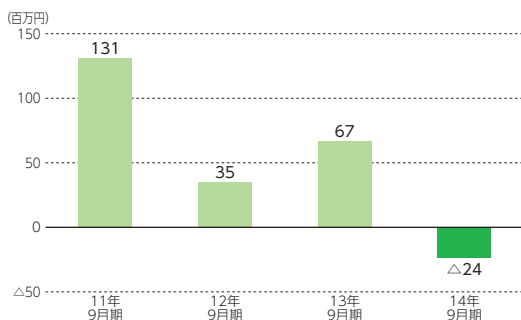
中心に現地生産・現地販売の規模拡大も進めていきます。また、食品包装資材や特殊印刷分野の開拓を進めていきます。

検査機事業

■ 売上高



■ セグメント利益



当事業の主要製品であります無地検査装置は、スマートフォンやタブレット端末の中小型液晶パネル向け高機能フィルム品質検査装置のニーズに対し、処理能力を大幅に向上させた新型機を中心に積極的な営業活動を展開しました。また、二次電池電極シート検査装置は、将来の本格的な設備投資需要に備えてシェアの維持に努めるとともに、新型機の下期投入に向けた最終調整に注力しました。しかしながら、高機能フィルム業界で設備投資に慎重な傾向が続いた影響により、想定したほどの伸びには至りませんでした。

もう一つの主要製品であります選果装置は、独自技術である生傷・腐敗センサが高く評価されているものの、依然として農業関連予算の執行が進まなかった影響から、前年同期の売上高を大幅に下回りました。

その結果、当事業の売上高は482百万円（前年同期比△26.2%）、セグメント損失は24百万円（前年同期は67百万円のセグメント利益）となりました。また、受注高は689百万円（前年同期比△11.2%）となりました。

下期の展望

当事業の主要製品である無地検査装置は、主にスマートフォンやタブレット端末の液晶パネル向け高機能フィルムを対象に、引き続き新型機の拡販に注力します。また、電極シート検査装置の新型機を投入し、次世代電池の本格的な普及に備えてシェアの拡大に努めます。

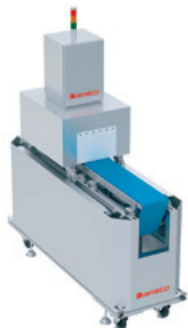
もう一つの主要製品であります選果装置は、国内においては、農業関連予算の執行期を確実に捉えて受注に結び付けるとともに、海外においては、北米市場の更なる拡大を進めます。

また、新たに投入した製袋検査装置の積極的なPR活動により、医薬品や食品などのパッケージ検査といった新たな分野の開拓を目指します。

新製品をシーフードショーに初出展！

この8月、東京ビッグサイトで開催されたジャパン・インターナショナル・シーフードショーにて、魚種選別装置「FS-P100」、魚品質検査装置「QG-100」を初出展しました。

これらの製品は、当社が農産品分野で培ったセンサ技術をベースに、水産総合研究センターや水産加工会社からなる官民参加の共同プロジェクトを経て新たに開発したものです。現状、漁港で水揚げされた種々雑多な魚の選別は手作業が中心で、いわば人海戦術の状態であり、また、衛生環境面の問題を指摘する向きもあります。魚種選別装置「FS-P100」は、魚の種類別に数値化したプログラムが組み込まれており、作業員の情緒に左右されない選別の標準化・省力化とともに、作業にかかるスピードアップを実現しました。



FS-P100



QG-100

シーフードショー会場の様子



また、魚品質検査装置「QG-100」は、長年の実績がある分析技術を活用し、非破壊かつ高速で魚の脂肪含有量の測定を可能にした製品です。コンベヤーでの搬送時に測定が可能のため、人の手がかかることなく衛生的です。

シーフードショーでは、ブースにご来訪されたお客様に、実際に脂肪量を計測し、脂肪量が一定以上にあるものとならないものに分けたサンマを食べ比べ、“舌”で装置の効果を体験していただきました。この企画は好評を博し、新製品の特長を広くアピールすることができました。

連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	当第2四半期末	前期末
(資産の部)			
流動資産		9,311	9,752
固定資産		2,921	2,832
有形固定資産		1,297	1,203
無形固定資産		111	123
投資その他の資産		1,511	1,505
①▶ 資産合計		12,232	12,584
(負債の部)			
流動負債		929	999
固定負債		251	530
②▶ 負債合計		1,180	1,529
(純資産の部)			
株主資本		10,912	11,018
資本金		3,072	3,072
資本剰余金		4,124	4,124
利益剰余金		5,054	4,982
自己株式		△1,338	△1,160
その他の包括利益累計額		45	△53
新株予約権		30	22
少数株主持分		63	67
③▶ 純資産合計		11,052	11,055
負債純資産合計		12,232	12,584

Check Point

① 資産

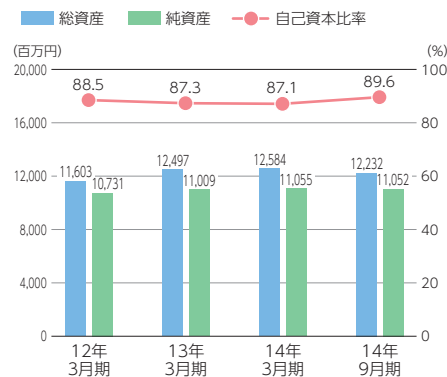
前期末に比べて352百万円減少し12,232百万円となりました。これは主に商品及び製品の増加95百万円、仕掛品の増加52百万円、当社新社屋建設に関する建設仮勘定の増加135百万円などがあったものの、自己株式の取得などによる現金及び預金の減少383百万円、受取手形及び売掛金の減少266百万円などがあった事によります。

② 負債

前期末に比べて349百万円減少し1,180百万円となりました。これは主に繰延税金負債の増加69百万円があったものの、退職給付に係る負債の減少320百万円、未払費用の減少30百万円、工事損失引当金の減少30百万円、長期借入金の減少16百万円、役員賞与引当金の減少14百万円があった事によります。

③ 純資産

前期末に比べて3百万円減少し11,052百万円となりました。これは主に「退職給付に関する会計基準の適用」による利益剰余金期首残高の増加214百万円や退職給付に係る調整累計額の増加74百万円があったものの、自己株式の取得による増加177百万円、四半期純損失71百万円及び配当金の支払76百万円があった事によります。



第2四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	期別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)
売上高		2,816	3,100
売上原価		1,937	2,040
売上総利益		878	1,059
販売費及び一般管理費		1,008	980
営業利益又は営業損失(△)		△129	79
営業外収益		31	31
営業外費用		7	6
経常利益又は経常損失(△)		△105	105
特別利益		—	158
特別損失		—	12
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)		△105	250
法人税等		△34	54
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)		△70	196
少数株主利益		0	2
四半期純利益又は四半期純損失(△)		△71	193

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	期別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー		10	1,020
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー		△22	231
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー		△285	△94
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△309	1,195
現金及び現金同等物の期首残高		4,643	3,574
現金及び現金同等物の四半期末残高		4,334	4,769

Check Point

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は10百万円（前中間期比1,009百万円の減少）となりました。これは主なフローアウトに棚卸資産の増加130百万円、税金等調整前四半期純損失105百万円、その他流動資産の増加43百万円、法人税等の支払額33百万円などがあったものの、主なフローインとして売上債権の減少262百万円、減価償却費73百万円などがあった事によります。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は22百万円（前中間期は231百万円の収入）となりました。これは主に定期預金の払戻による収入224百万円、投資有価証券の売却による収入71百万円などがあったものの、定期預金の預入による支出157百万円、固定資産の取得による支出147百万円、投資有価証券の取得による支出26百万円などがあった事によります。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は285百万円（前中間期比191百万円の増加）となりました。これは主に自己株式の取得189百万円、配当金の支払76百万円があった事によります。

ウェブ事業

そもそもウェブとは、業界ではシート状や巻物状になっている“薄いもの”のことをいいます。身近なものでいえば、新聞や雑誌に使われる紙、パソコン、スマートフォンなどの液晶パネルに使われる樹脂シートや、食品包装フィルムなどがその代表例です。そのような“薄いもの”を取り扱う生産工程で、ズレ、たるみやシワなどが生じないように制御することをウェブ・コントロールといいます。

具体的にどのようなコントロールが求められるかという点、**「揃える」**、**「引っぱる」**、**「合わせる」**の3つが主なものです。

このウェブ・コントロールの基本的な技術はプロセス事業の鋼板制御で培ってきました。長年にわたり培ってきた技術を応用・発展させ、対象とする製品の幅を広げてきた結果、現在のウェブ事業へと成長しました。

[代表的製品のご紹介]



ウェブの巻き取り、送り出しの工程で、端を均一に揃えるようコントロールすることにより、シワ、たるみや破断などを防止する装置システムです。



ウェブの巻き取り、送り出しの工程で、均一に張力をコントロールすることで、シワ、たるみや破断などを防止する装置システムです。



印刷時の印刷ズレを瞬時に判別し全方位で位置を調整することで、きれいな紙面を維持する装置システムです。



そのほか多彩な製品ラインナップ



株式の状況

株式の状況 (平成26年9月30日現在)

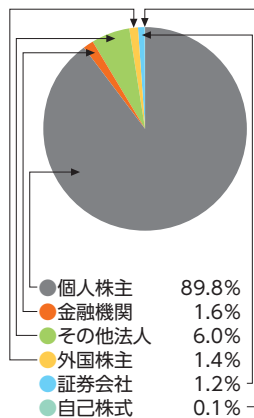
発行可能株式数： 39,400,000株
 発行済株式の総数： 9,205,249株
 株主数： 888名
 大株主：

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	790	10.7
極東貿易株式会社	469	6.4
ニレコ取引先持株会	451	6.1
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASH PB)	397	5.4
株式会社東京都民銀行	364	4.9
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	309	4.2
浅井美博	238	3.2
住友金属鉱山株式会社	231	3.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (従業員持株ESOP信託口・75529口)	196	2.7
ニレコ従業員持株会	182	2.5

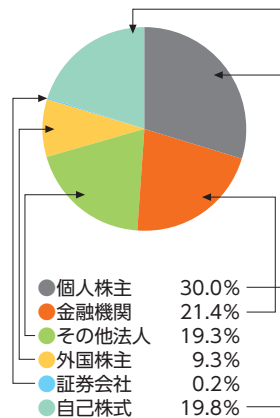
(注) 上記以外に、当社は自己株式1,826,171株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

●株主数



●保有株式数



会社情報

会社の概要 (平成26年9月30日現在)

商号：株式会社ニレコ
 英文商号：NIRECO CORPORATION
 本店所在地：東京都八王子市石川町2951番地4
 設立：昭和25年11月
 資本金：3,072百万円

役員 (平成26年9月30日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長兼執行役員	川路 憲一	CEO
常務取締役兼執行役員	長塚 寛	管理部門長兼生産管理部門長
取締役兼執行役員	河西 辰雄	ウェブ事業部長兼仁力克股份有限公司董事長
同	久保田 寿治	プロセス事業部長
※ 取締役	碓 光司	
常勤監査役	田邊 寛一郎	
※ 監査役	林 光彦	
※ 同	古 君修	

執行役員

藤原 利之 ミヨタ精密株式会社代表取締役社長兼利可自動制御機器(上海)有限公司董事長

小林 正明 検査機事業部長

※会社法に定める社外取締役及び社外監査役です。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 開催時期	6月下旬
定時株主総会議決権 行使株主確定日	3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日

法定公告は次のURLに掲載しております。

<http://www.nireco.jp/ir/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

○同事務取扱場所

〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

○郵便物送付及び電話照会先

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **6863**

いいかぶ

検索



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media (エー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

(株式会社 a2media) についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ 「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com

株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4
電話 042-642-3111 (代表)

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

